

令和4年度授業改善推進プラン

清瀬市立芝山小学校 第5学年

	授業における課題や学力調査資料から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	<p>基礎的な言語事項の習得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習った漢字を使用したり、書きたい文章を正しい語順で書いたりすることができていないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを書く場面を意図的に設定し、すでに習っている漢字は意識的に書く習慣を身に付けさせる。 ・書き方の例を提示し、形式的なところから書くことを始めさせる。また、推敲してよりよい文章表現に修正する習慣を付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の学習では、繰り返し学習を行い、テストなどでは点数も上がった。 ・日常的に文章で活用する力が課題である。 ・例があるとそれをもとに詳しく文を書き、推敲しようと努められるようになった。
社会	<p>資料の活用能力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラフや表、写真などの資料を読み取り、その特徴や変化を捉え、それを記述する ・資料から読み取れる社会的事象を自分の言葉でまとめあげることが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフや表、写真などから読み取った情報をもとに、根拠や解釈を示しながら、図や文章などで表現し説明することができるようにする。 ・資料名や資料の読み取り方を丁寧に指導し、視点を与える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を読み取り、自身の仮説立証のための根拠とすることはできるようになってきている。 ・資料の読み取りは支援があれば、自力解決できるようになった。
算数	<p>基礎学力の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わり算の筆算の仕方に課題を残す児童が多い。 <p>数学的な考え方の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・答えに至るまでの過程を他者に説明すること 	<ul style="list-style-type: none"> ・位取りを意識させるため、マス目を使ったノート指導を徹底していく。 ・過程を説明するにあたって、言葉だけでなく図や表、式を活用しながら思考の過程を提示できるような活動を増やす。また、他者の意見をノートにまとめることで、考え方を広められようようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と教え合う姿が多く見られ、数学的に説明する力が育った。 ・自分の考えを、図や式を活用して問題を解くことができるようになってきている。 ・単元の内容や個人差など実態に合わせた課題に取り組む機会を増やす。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの生活経験を基に、実験や観察後の結果を予想し、その仮説に向かって課題に取り組むこと。 ・その実験の結果から見えることと、これまでの学習で学んだ知識をふまえて考えること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予想を立てる際に、必ずその根拠となる経験やこれまでの学習内容を書いたり、言ったりさせるようにする。 ・考察の書き方の例や視点を示し、考えをもつための手立てを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実体験や既習事項を基に予想を立てることができるようになってきている。 ・実験の結果から、どのようなことがわかったのか考察していく力が育ってきている。
音楽	<p>曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって表現をするための技能の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲想及びその変化と音楽の構造との関わりについて理解し、曲全体を味わって聴く能力の育成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのように演奏したいか思いや意図をもたせるような言葉かけをする。 ・様々な楽器を取り入れ、学習形態を工夫し、各声部や全体の響き、伴奏を聴いて合わせる技能を高める。 ・感じ取った曲想などを基にし、それを生み出している音楽の構造との関わりを考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽会を通して思いや意図をもつて演奏する力、全体の響きや伴奏を聴いて合わせる技能が高まった。また、心を合わせて演奏する楽しさを味わわせることができた。 ・曲想及びその変化と音楽の構造との関わりについて理解する能力は個人差があり、指導の工夫が必要である。
図画工作	<p>道具や材料などの正しい扱い方を習得し、用途に応じて自分なりに使い分けの力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材の意図やねらいを理解して、自分なりの発想で表現を工夫しようとする力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵の具、カッターナイフなど既習の道具の他に、電動糸のこぎり、ペンチなどの道具や技法が習得できる題材を取り入れる。用途に応じて使い分けられるようにする。 ・題材の意図やねらいの理解を深めるために、多様な考えを共有できる場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電動糸のこの使い方や、ワイヤーを使った表現等、新しい表現を楽しみながら行うことができた。絵の具の表現に関して苦手意識のある児童が若干名いるので、自信をもてるような課題の設定をしていく。 ・作品を組み立てる行程が複雑になった場合も、次の見直しをもって道具や描画材を選んで行動できるようにする。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・実生活での経験の差が、実習や知識の差に強くなってしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内での話の中で実生活に当てはめた事例や、児童からの経験を積極的に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経験した内容を共有することで、実際の場面を想像しながら課題に取り組むことができた。 ・学習したことを日常生活で生かすことが難しい児童が出てきてしまう。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・自己やグループの課題を見つけ、その解決のための方法や活動を工夫しようとする態度の育成 ・基本的な技能を向上させようとする思考力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・競技の練習時間には、話し合いやアドバイスをしあったり、お互いの動きを見あったりするための時間を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童同士が動きを見合い、互いにアドバイスを求め、協同的な学習を行うことができた。 ・課題解決のために、課題に合った場を選ぶことができるようになった。
外国語	<p>様々な表現方法を活用する力の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTをうまく活用し、教科書にない単語等も広く児童に提示できるようにする。 ・積極的に音声や視覚教材を活用し、自ら発音しようとするようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知らなかった単語も、興味をもち積極的に発音するようになってきている。 ・一文が長くなると、発音が難しかったため、児童が主体的に発音したいと思える環境をつくっていくことも課題である。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・自分事としてとらえられず、自分の生活に結び付けられない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入ではどのような内容について考えを深めてほしいのか確認するとともに、振り返りの視点や発問について児童の実態に合わせ工夫・改善する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した内容について自身の経験を振り返ることができてきている。 ・この先の生活でどう生かしていくか考えて、実践していこうとする意識を高めることができた。
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ・課題追究の仕方が浅くなりがち。 ・情報収集にとどまり、目的に応じて必要な情報を取捨選択することができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題について、どんどん疑問を広げられるように、「どうして」「なんで」などの視点をもてるよう、試行ツールを活用するなどの工夫をする。 ・目的意識を常にもたせて、何を調べているのか、どんな情報がなのかを常に意識して調べ学習を進めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集する力が高まっているが、整理したり分析したりすることに課題が残る。 ・相手意識をもって、発表する順序、スライドの順序を推敲する意識を高められた。